

## ■学校経営のポイント

# アクティブ・ラーニングを進化させる

小島 宏

関心の高いアクティブ・ラーニングの基礎的理解と校長としての見解を整理しておく必要がある。

### アクティブ・ラーニングの意味

大学では、「学生が主体的に問題を発見し解を見だしていく能動的学修」という意味に使われている。

<定義1> 教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である(中教審「質的転換」答申(4)用語集、p37、平成24年8月28日)。

### 源流としての「単元学習」

かつての単元学習(要約抜粋・文部省「学習指導要領一般編(試案)」昭和26年)は、「教師によって、一方的に課せられる課題の学習ではなくて、児童・生徒の必要・関心・目的・問題などに基いた意味ある問題解決の学習で、目的が意識され、生き生きした学習である」「教師と、児童・生徒との協力によって計画がたてられる弾力性をもった学習である」「単元の目標を達成するためには、単に教師の話を聞き、教科書を読むというだけではなく、必要な資料を集めたり、それをもとにして討議したり、まとめたり、批評しあったり、その結果をいろいろに表現したりするような多様な学習活動を行う」「単に、目標に照して、価値ある理解が深められるだけでなく、望ましい態度が身につけられる能力が練られる」と、説明されている。アクティブ・ラーニングに酷似している。「活動あって学びなし」と批判されたが、改めて問い直したい。

### 現行の学習指導要領の位置づけ

総則に「各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童(生徒)の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。(第4の2)」とある。

各教科等でも「指導計画の作成と内容の取扱い」で、実験・観察・調査、体験学習、問題解決学習、グループ討議、グループ学習等を奨励している。

### 現時点における小中学校の例

小中学校で日常的に行われている例をあげる。  
<学習活動> 作業的な学習、観察・操作・実験・見学・調査などの活動、算数的・数学的活動、<体験活動> ○○ごっこ、疑似体験、自然体験やボランティア活動など社会体験、ものづくりや生産・飼育栽培など体験活動、<協働学習> グループ学習、教え合い、協働で行う創造活動、他者と協同して問題を解決する活動、<問題解決> 問題解決学習、探究活動、興味・関心に基づいて課題を設定し解決する学習、<話し合い活動> 発表や討論・議論で考えを深める話し合い、意見をまとめる話し合い、問題解決学習では問題を各自で解決したことを共通理解するグループの話し合い(ダイアログ)、まとめるための全体の話し合い(ディスカッション)が行われる。

なお、ゲーム、シミュレーション、ロールプレイ、役割演技、プロジェクト学習等の取組みもある。

### 今後の対応の在り方

以上のように、小中学校では以前から実践してきている。だから「このままでよい」のではなく、これからの社会で生き抜く児童生徒に「どのような資質・能力、態度を育成するか」という視点に立って研究し、さらに進化させることが重要である。

(こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長)

●授業力不足の教員をつくらない指導法はこれ！

## 結果が出る 小・中OJT実践プラン 20+9

【編集】千々布敏弥 A5判・240頁／定価(本体 2,100円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

